

2015年7月7日から陸上無線技術士国家試験が始まりますね。そこで一言、「愛情」・「尊敬」・「感謝」の大切さ。

7月7日（火曜日）から陸上無線技術士国家試験が始まります。受験される方は、最終の追い込みをしていると思います。当研究室でも「ねらいどころ」という資料を作成してそのための支援を長年行っています。

ところで、当研究室を主宰している小生としては、単に無線従事者国家試験に合格してほしいとして、当研究室を立ち上げた訳ではないのです。因みに、この研究室を立ち上げる前からも現在も長年無線従事者国家試験対策を複数の学校で担当し続けています。無線従事者国家試験は、昔は記述式、今は多肢選択式となっていますが、着実に過去の問題を中心に勉強を続けていけば、合格できないというものではありません。一部の国家試験等に見られる適性等に大きく左右されるという国家試験ではないと推察しています。努力を継続していけば必ず合格すると言っても過言ではないのです。ですから、「七転び八起き」という考え方にマッチした教育をこの無線従事者国家試験対策を通して行っています。ただ、そこに厳しい国家試験合格のために着実に勉強し、その努力を通して粘り強さを踏まえた「思いやり」の姿勢（この国家試験は定員がある競争試験ではなく、合格ラインの点数を突破すれば全員でも合格なのです。）も教えていきたいと考えて実践しています。

ところが、学校でもまた「ねらいどころ」の購読者の中において、一部の方には、結果重視に偏重されているように見えることがあります。確かに試験ですから合格という結果が重視されるのは自明ですが、あまりにも割り切ったところが見えるのです。

ところで、書籍『サバイバル経営学』（集英社）では、次のようにサラリーマンの出世の法則を書かれております。それによると「かわいいやつ」と上司に思われるところから仕事が与えられ、その仕事に真摯に向き合って成し遂げることで更なる仕事に臨み、昇進していくことになるのです。

このような意味からも、またこのような意味を超えた考えからも、上級の無線従事者国家試験に合格すればするほど、謙虚にその資格に恥じない実力を付けてほしいのは言うまでもなく、更なる多くの人々への「思いやり」を真摯に追求し実践できる人物になってほしいのです。いわゆる「愛情」・「尊敬」・「感謝」を互いに高め合い社会において実践していくことを望んでいます。

是非この点をご理解いただき、「ねらいどころ」の資料等も参考にして、無線従事者国家試験に合格し、社会のために微力であっても真摯に貢献することを願っています。これは、電波法第1条にある目的に示していることとも同義と思います。

2015.7.4